

令和6年漁期のズワイガニの水揚げ状況

資料提供	
令和7年4月11日	
担当課（担当者）	漁業調整課（田中、清家）
電話	0857-26-7303、7315

1 概況

- (1) 今漁期（R6.11.6～R7.3.20）は、沖合底びき網漁船23隻が操業し、漁期中の延べ入港隻数は753隻（前年比105%）だった。
- (2) 今漁期のズワイガニ漁は、水揚げ量が533トン（前年比109%）で、TAC消化率は51.4%（前漁期49.7%）となった。水揚げ金額は2,202百万円（前年比85%）であり、単価は4,125円/kg（前年比79%）だった。
- (3) 「松葉がに」は、水揚げ量が165トン（前年比88%）で、水揚げ金額は1,421百万円（前年比86%）だった。単価は8,566円/kg（前年比97%）だった。
- (4) 「親がに」の水揚げ量は334トン（前年比121%）で、水揚げ金額は725百万円（前年比84%）となった。単価は2,171円/kg（前年比69%）だった。
- (5) 「若松葉がに」の水揚げ量は33トン（前年比125%）で、水揚げ金額は55百万円（前年比96%）、単価は1,637円/kg（前年比77%）だった。

2 集計結果（11月6日から3月20日までの累計）

漁協		漁船 隻数	延入港 隻数	松葉がに			親がに			若松葉がに			合計		
				数量 (k g)	金額 (千円)	単価 (円/kg)	数量 (k g)	金額 (千円)	単価 (円/kg)	数量 (k g)	金額 (千円)	単価 (円/kg)	数量 (k g)	金額 (千円)	単価 (円/kg)
田後漁協		6	173	53,763	444,799	8,273	112,634	200,059	1,776	11,696	16,642	1,423	178,092	661,500	3,714
鳥取県漁協	網代港支所	10	385	58,149	529,998	9,115	123,301	330,628	2,681	10,013	16,070	1,605	191,462	876,697	4,579
	賀露支所	4	108	20,799	158,759	7,633	49,178	100,787	2,049	6,630	14,717	2,220	76,607	274,263	3,580
	境港支所	3	87	33,233	287,846	8,661	49,128	94,249	1,918	5,408	7,796	1,442	87,769	389,892	4,442
合計		23	753	165,943	1,421,403	8,566	334,240	725,723	2,171	33,746	55,226	1,637	533,929	2,202,351	4,125
前年同期		23	719	188,676	1,661,722	8,807	275,890	862,660	3,127	26,899	57,437	2,135	491,466	2,581,819	5,253
対前年増減		0	34	△ 22,733	△ 240,319	△ 241	58,350	△ 136,937	△ 956	6,846	△ 2,211	△ 498	42,463	△ 379,468	△ 1,128
前年比 (%)		100	105	88	86	97	121	84	69	125	96	77	109	85	79

（表中の数字は小数点以下四捨五入しています）

3 「特選とっとり松葉がに五輝星」について 【 】内は前漁期

- (1) 水揚げ枚数158枚【220枚】、水揚げ金額10,354千円【15,066千円】、平均単価65,532円/枚【68,482円/枚】、値幅16,000～600,000円【13,500～2,800,000円】
※最高値600,000円を除いた平均単価62,127円/枚【最高値2,800,000円を除いた平均単価56,009円/枚】
- (2) 鳥取県では平成27年漁期から、認定基準※を満たした高品質の松葉がにを「五輝星」としてトップブランド化。毎年の取引枚数は約100～200枚（出現率0.01～0.05%）で、その希少性は極めて高い。平均単価は3～9万円と高価であり、漁業者の収入増や鳥取県産松葉がにの品質イメージ向上に寄与。
※認定基準① 甲幅13.5cm以上 ② 重さ1.2kg以上 ③ 脚がすべてそろっている ④色味が鮮やか ⑤身が詰まっていること

4 まとめ

- (1) ズワイガニ漁の漁獲量は前年の109%と増加した。松葉がにの水揚げ量は前年比88%と減少したが、親がにが同121%、若松葉がにが同125%とそれぞれ前年より多く、このことがズワイガニ全体の漁獲量の増加に寄与した。水産試験場が漁期前に行った調査では、親がにと若松葉がにの資源が回復基調にあることから、来漁期以降、一時的に松葉がに、若松葉がにの漁獲も上向くことが期待され、近年の漁業者の自主規制の強化が資源回復に繋がっていると推察される。一方で、国の資源評価では令和9年頃から再び資源が減少に向かうことが予測されており、引き続き先を見据えた資源管理体制を継続していくことが必要。
- (2) 水揚げ金額は22.0億円で前年より減少した。松葉がにの水揚げ量が少なかったこと、市場全体のかにの流通量が多く、親がにが単価安となったことなどが影響したものと考えられる。